

下北ジオパークちぢり浜ジオサイトの活性化策を考えるフィールドワークを開催

青森県立むつ高等技術専門校を中心とする「ものづくりでまちづくり実行委員会」では、ものづくりを通して下北ジオパーク活動を後押しする取組みとして、下北ジオパーク応援プロジェクト事業を行っています。下北ジオパーク応援プロジェクト事業では、むつ高等技術専門校の木造建築科で実施している職業訓練の知識・技能を活かし、地域住民と協力しながらむつ市内のジオサイトを多くの人に知ってもらえるよう積極的に観光資源としてPRするため、今年度はちぢり浜ジオサイトで活動することとしています。

☆ちぢり浜ジオサイト（溶岩と水の力から生まれた不思議な岩）

ちぢり浜は、浅い海に溜まった砂岩の岩礁地帯。波食棚と呼ばれる平らな岩場に、ポットホール(円形の深い穴)やハニカム(蜂の巣状)構造など、不思議な造形が点在しており、まさに自然のミュージアムとなっています。波の力が創り上げた奇石のアートを見ると、まるで異空間に飛び込んだ気分になります。



令和3年6月18日(金)にちぢり浜ジオサイトの魅力を見つけることをテーマに、午前中はむつ市下北自然の家敷地エリア内を自然の家担当者から、案内していただきました。雨の一粒ハイキングのスタート地点から運動広場、冒険の森、キャンプ場、ちぢり浜展望台を經由しながら現状を観察しました。



また、午後は津軽海峡に面した奇石や複雑な形状が広がるちぢり浜を下北ジオパークガイドの方々から説明を受けながら、波食棚と呼ばれる平らな岩場にできたポットホール(円形の深い穴)やハニカム(蜂の巣状)の不思議な造形の説明を受けながらフィールドワークを実施しました。



実行委員のみなさんと一緒に参加した訓練生からは、「フィールドワークを通じてちぢり浜ジオサイトの自然をよく知ることができた」「実際に散策コースを歩いてみると破損している看板やベンチが腐食により危険な状態であった」「もっと大きいちぢり浜への案内看板があればいい」などの意見がありました。

木造建築科の訓練生が市内にあるジオサイトを地域の人と一緒に歩き、むつ市下北自然の家で活動している方の取り組みに触れ、下北ジオパークガイドの方々から説明を聞きながら、ちぢり浜ジオサイトの現状を自分の目で確認し、建築を学ぶ訓練生としてジオサイト内に必要な施設・設備を考えるという目的で実施したフィールドワークは、むつ市下北自然の家と下北ジオパークガイドのみなさまをはじめ、実行委員会の委員のみなさまに御協力いただき、無事終えることができました。ありがとうございました。

今後、それぞれの訓練生が考えたアイデアをグループで集約しながら提案することになるので、どんなものがジオサイト内に設置されるのかこれからの展開が楽しみです。

ジオパーク活動を通して地域の「宝さがし」をしよう！

